

事例36 逆洗回数を減らした事による水質改善事例

1. 基本情報および一年間の測定結果

処理方式	性能評価型 窒素除去型	作業予定月	
メーカー／型式	フジクリーン工業(株)／CF型	保守点検	3・7・11月
人槽／使用人員	7人槽／4人使用	清掃	9月
日平均汚水量	0.84m ³ /日	法定検査	5月

	放流水透視度(度)	DO (mg/L)	pH	1次処理流出水透視度(度)	1次処理1室 (cm)		1次処理2室 (cm)		処理水槽 (cm)	
					スカム厚	堆積汚泥厚	スカム厚	堆積汚泥厚	スカム厚	堆積汚泥厚
保守 平成26年3月7日	10	0.2	7.4	7	26	19	4	24	2	15
法定 平成26年5月29日	12	0.1	7.3	8	30	28	8	32	2	18
保守 平成26年7月14日	38	1.1	7.4	18	34	26	9	18	0	6
清掃 平成26年9月2日	30	/	7.5	15	38	35	/	20	/	/
保守 平成26年11月5日	42	1.0	7.4	21	4	8	0	6	0	0



2. 浄化槽の概要図と法定検査時の設定状況

概要図	法定検査時の設定状況		
<p>ろ材 ろ過担体</p>	メーカーの基本設定	保守点検の設定	
	循環水量	3Q 1.75 L/分	1.8 L/分
	逆洗設定	1日3回 1回10分	1日3回 1回10分
	放流量の目安	移流堰目安形状上端と一致して放流	移流堰目安形状上端と一致して放流

3. 法定検査時の槽内状況

1次処理1室	1次処理1室/2室	2次処理/処理水槽
1室スカム厚 30cm 堆積汚泥厚 28cm	2室スカム厚 8cm 堆積汚泥厚(多い) 32cm ①1次処理1室流出口	処理水槽スカム厚 2cm 堆積汚泥厚(多い) 18cm

4. 透視度低下の原因と保守点検への申し送り事項

	1次処理1室流出口	処理水槽
		
原因	①タイマーのボタンによる手動逆洗で1室から流出する汚泥の状況が確認できる(多い)	②1次処理機能低下により処理水槽に蓄積汚泥が多い



申し送り	① 処理水槽のスカム及び堆積汚泥を移送して下さい ② 汚泥の移動を抑えるため逆洗回数を1日3回から1日2回に変更して下さい
------	--

5. 保守点検からの経過観察

測定値		措置① 平成 26年 5月 30日 (法定検査から 1日後)
放流水透視度(度)	12	状況確認と指示とおりの措置と設定変更を行う
測定値		措置② 平成 26年 6月 13日 (法定検査から 15日後)
放流水透視度(度)	16	処理水槽堆積汚泥厚が減少傾向にあります 手動にて汚泥移送を実施し経過観察します
1次処理流出水透視度(度)	10	
処理水槽堆積汚泥厚(cm)	15	
測定値		措置③ 平成 26年 6月 27日 (法定検査から 29日後)
放流水透視度(度)	21	透視度が回復傾向にあります
1次処理流出水透視度(度)	12	手動にて汚泥移送を実施し設定変更せず経過観察します
処理水槽堆積汚泥厚(cm)	13	
測定値		措置④ 平成 26年 7月 14日 (法定検査から 46日後)
放流水透視度(度)	38	保守点検作業日
1次処理流出水透視度(度)	18	水質改善とともにスカムは浮上せず堆積汚泥厚が減少しました
処理水槽堆積汚泥厚(cm)	6	

6. 保守点検から清掃への申し送り事項

① 循環水量は1.8L/分で調整しています
② 逆洗設定は変更しないで下さい
③ 1次処理2室および2次処理生物ろ過部の強制攪拌を実施して下さい

7. 清掃時の留意点

① 適正量引抜き区分 ○-○-○
② 1次処理の立ち上げを早める為、ろ材の洗浄はしすぎない
【ろ材の形状】 1次処理1室:ヘチマ様板状 2室:網様円筒状